

「ひとりひとりの名を呼んで」という歌をご存じでしょうか。

ひとりひとりの名を呼んで 愛してくださるイエス様
どんなに小さなわたしでも おぼえてくださるイエス様

聖書の中で「名」は、大きな意味を持ちます。たとえば聖書に出てくる人物の名前が、それ自体で意味をもつ場合があります。たとえばアダムは「土」、エバは「命」、イサクは「彼は笑う」などです。

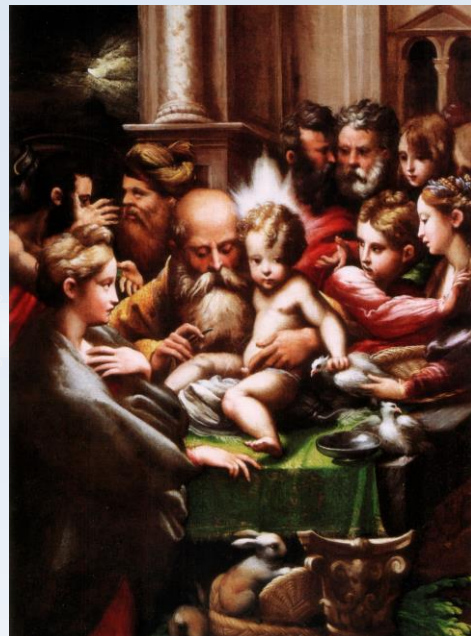
またアブラム→アブラハム、サライ→サラ、ヤコブ→イスラエルのように、神さまによって改名させられた例もあります。

その神さま自身もモーセに名を聞かれた際、「わたしはある。わたしはあるという者だ」(出エジプト記 3 章 14 節:協会共同訳聖書では、「私はいる、という者である」と答えました。固有名詞での名前ではなく、どういう関わり方をする方だということを、その名によって示されたのです。

そしてイエス様は、その「名」によってわたしたちとどのように関わるのかを伝えておられます。「二人または三人がわたしの名によって集まる所には、わたしもその中にいるのである」(マタイによる福音書 18 章 20 節)と語られ、「はっきり言っておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる」(ヨハネによる福音書 16 章 23 節)と約束してくださるのです。

このようにしてイエス様は、その名によってわたしたちに命を与えてくださいます。「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである」(ヨハネによる福音書 20 章 31 節)とあるとおりです。だからわたしたちは、いつも「イエス様の名によって」お祈りするのです。

今回は「慰め」です。お楽しみに。



「キリストの割礼」

パルミジャニーノ

(1503~1540 年)

門番は羊飼いは門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。

(ヨハネによる福音書 10 章 3 節)

